

令和5年度 改善計画書【 教育 】

推進責任者： 宇佐川 毅

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
A:ディプロマ・ポリシーにおいて教育プログラムを修了した学生に期待される学修成果が適切に定められ、その達成が授与する学位に相応しい水準であること。	「学位プログラム評価」における評価項目A-1の点検項目【ディプロマ・ポリシーが大学の理念・目的・目標に即して定められていること】	【教育学部】 一部の教育プログラムのディプロマ・ポリシーにおいて、大学の教育目的に対応できていない部分が見られたため、見直しを行っていただきたい。	指摘部分である初等・中等教育コース英語専攻のディプロマ・ポリシーについて、英語科教育講座を中心に修正案を検討する。10月23日開催の令和5年度第5回教育学部・教育学研究科運営会議、11月8日開催の令和5年度第8回教育学部教授会において審議・了承され、11月10日付けで理事・副学部長宛に提出した。 しかし、大学教育統括管理運営機構から再度、同箇所について指摘があったため、学部内で再度修正案を検討し、12月4日開催の教育学部運営会議にて了承された。その後、12月12日開催の教育会議にて審議・了承された。（教育学部では、12月13日開催の令和5年度第9回教育学部教授会において追認された。）
C:カリキュラム・ポリシーに基づいて、教育課程が体系的に編成され、適切な水準になっていること	(学位プログラム評価：C-1) カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等に、履修の順序関係を明確にした体系性が示されていること。	【教育会議】 複数の教育プログラムにおいて、カリキュラム・ポリシーとカリキュラム・ツリーとの修得能力・科目の相関性が一致していないプログラムが見られたことから、改善に向けた体制等をご検討いただきたい。	令和5年11月、教育会議WGを開催し、令和5年度教育総合評価結果を受けて見直した「3ポリシー等を変更する場合のフロー」を再度見直す。 また、令和2年10月に大学教育統括管理運営機構が作成した「3ポリシー再点検に際しての観点と留意事項」を、令和5年2月に取りまとめられた「教学マネジメント指針（追補）」にも対応した内容に見直し、12月開催予定の教育会議へ提案する。12月開催予定の教育会議で審議・了承後、部局へ通知する予定である。
	(学位プログラム評価：C-3) シラバスを検証することで、1単位当たり45時間の学修時間が必要であることが確認できること。	【FD委員会】 大学院課程の教育プログラムにおいて、シラバスチェック等のFDに関する取組が確認できない部局が見られたため、FD活動の充実に向けて検討いただきたい。 なお、とりわけ博士後期課程においては学生数が僅少な教育課程もあるため、授業改善のためのアンケート等、授業科目単位での実施が難しい状況も踏まえ、代替の取組について検討いただきたい。	令和5年11月24日開催のファカルティ・ディベロップメント委員会において、改善の提案を受けて本委員会における対応について審議した結果、以下のように対応することが承認され、改善に向けて取り組むこととした。 令5年度シラバスチェックについては令和6年1月末を期限として依頼済みであるが、学部及び研究科（教育部）等の複数の教育プログラムをまとめて報告書を作成する際は、チェックを実施した科目数の開講部局（大学院は課程別）別の内訳を明記して報告書を取りまとめていただくよう、部局へ再度依頼を行う。 ・大学院博士後期課程を中心とした履修者が少ない授業科目における「授業改善のためのアンケート」のあり方については、令和6年3月までに本委員会において、実施方法等、システム改修も含めて具体的な方策を検討をする。
	(学位プログラム評価：C-3) シラバスを検証することで、1単位当たり45時間の学修時間が必要であることが確認できること。	【保健学教育部（博士後期課程）】 博士後期課程におけるシラバスチェックを適切に実施いただきたい。	令和6年1月までに、博士前期課程・後期課程におけるシラバスチェックを適切に実施する。また、保健学教育部シラバスチェック要領を見直しを検討し、実効性の担保を図る。

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
D:カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を学生が修了するために、教育課程が効果的に実施されていること	(全学共通評価：D-1) 各科目の授業期間が15週となっていること。また、8週となっている科目は、教育上の必要があり、15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること。	【教育会議】 授業を行う期間が年間35週にわたることを踏まえ、「学年暦の明確化」として令和3年度に改善の提案を行ったが、留意すべき事項である「授業を行う期間が35週であることを明示する」、「各曜日等の講義回数について、何回目の授業であるかをわかりやすく明示する」に関して対応が不十分だと思われる部局が確認されたことから、改めて、部局への周知を行っていただきたい。	令和5年11月、教育会議WGを開催し、部局への通知案及び学年暦案を検討のうえ、12月開催予定の教育会議へ提案する。 12月開催予定の教育会議で審議・了承後、部局へ通知する予定である。
	(学位プログラム評価：D-2) 全ての授業科目のシラバス、授業計画欄が当該授業科目の単位数により定められた授業時間に相当する授業回数分（8回、15回等）で構成されていること。 (学位プログラム評価：D-3) シラバスの各項目に空欄がなく、全科目・全項目が記入されていること。 (学位プログラム評価：D-5) 学生の学修時間を確保するような工夫がなされていること。	【FD委員会】 大学院課程の教育プログラムにおいて、シラバスチェック等のFDに関する取組が確認できない部局がみられたため、FD活動の充実に向けて検討いただきたい。 なお、とりわけ博士後期課程においては学生数が僅少な教育課程もあるため、授業改善のためのアンケート等、授業科目単位での実施が難しい状況も踏まえ、代替の取組について検討いただきたい。	(学位プログラム評価：C-3の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：D-2) 全ての授業科目のシラバス、授業計画欄が当該授業科目の単位数により定められた授業時間に相当する授業回数分（8回、15回等）で構成されていること。 (学位プログラム評価：D-3) シラバスの各項目に空欄がなく、全科目・全項目が記入されていること。 (学位プログラム評価：D-5) 学生の学修時間を確保するような工夫がなされていること。	【保健学教育部（博士後期課程）】 博士後期課程におけるシラバスチェックを適切に実施いただきたい。	(学位プログラム評価：C-3の同「改善計画」に記載のとおり)

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
F：期待される学修成果の達成の程度について、適切に評価していること	<p>(学位プログラム評価：F-1) 各授業科目のシラバスの成績評価欄の記載が適切であること。</p> <p>(学位プログラム評価：F-2) 【教職課程含む】授業科目ごとに学生に対して授業の目標が明示されていること。</p>	<p>【FD委員会】</p> <p>大学院課程の教育プログラムにおいて、シラバスチェック等のFDに関する取組が確認できない部局がみられたため、FD活動の充実に向けて検討いただきたい。</p> <p>なお、とりわけ博士後期課程においては学生数が僅少な教育課程もあるため、授業改善のためのアンケート等、授業科目単位での実施が難しい状況も踏まえ、代替の取組について検討いただきたい。</p>	<p>(学位プログラム評価：C-3の同「改善計画」に記載のとおり)</p>
	<p>(学位プログラム評価：F-1) 各授業科目のシラバスの成績評価欄の記載が適切であること。</p> <p>(学位プログラム評価：F-2) 【教職課程含む】授業科目ごとに学生に対して授業の目標が明示されていること。</p>	<p>【保健学教育部（博士後期課程）】</p> <p>博士後期課程におけるシラバスチェックを適切に実施いただきたい。</p>	<p>(学位プログラム評価：C-3の同「改善計画」に記載のとおり)</p>
	<p>(教職課程評価：F-3) 成績評価に関する共通の理解が構築されていることを確認していること。</p>	<p>【教職総合センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度改善指示事項であった本項目について、改善計画に基づき、適切に実施いただきたい。 (参考：令和4年度指摘事項) ・同一名称の授業科目における成績評価の共通の理解を図るよう、教職課程における実施体制を検討いただきたい。 	<p>次の事項について、教職総合センター教職運営委員会で改善計画を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一名の授業シラバスで差があった科目は、当該学部教授会（令和5年2月8日）において、課題として提案した。成績評価を含めた令和6年度シラバス統一について、教職系の教員2名（教育学系1名の教授、心理学系1名の教授）令和6年2月末までにシラバスの修正について依頼した。 修正されたシラバスについては、3月末までに教職運営委員会で確認する。
	<p>(学位プログラム評価：F-5) 成績評価分布データの分析、評価が適切に行われていること。また、GPA算定の対象科目について、成績分布型が妥当であることを確認していること。</p>	<p>【薬学教育部（博士前期課程・博士後期課程・博士課程）】</p> <p>成績評価の分布・分析に関して貴部局にてご検討中の方策に基づき実施いただきたい。</p>	<p>次年度からのシラバス作成時に間に合うように以下のポイントを教授会にて周知する。</p> <p>「大学院授業の成績付けは特別講義を含めたレポートあるいは関連論文を自ら調べ、要点や思った意見を述べるレポートで採点することが多い。当該レポートの採点をより厳格化する評価法や各々の工夫をシラバスに記載して頂き、成績が正規分布化になるように努める。またその有効性については次年度以降の成績評価の確認にて検証する。」</p>
	<p>(学位プログラム評価：F-S1) 個人指導が中心となる科目を開設している場合に、成績評価の客観性が担保されていること。</p>	<p>【法学部】</p> <p>個人指導が中心となる科目における成績評価の客観性を担保する体制を検討いただきたい。</p>	<p>本年度内に卒業論文の成績評価を確認する体制を構築し、来年度（令和6年度）から運用を開始する。</p>

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
H：卒業（修了）後の状況等から判断して、期待される学修成果が得られていること	（学位プログラム評価：H-1） 卒業（修了）後一定の期間を経た既卒者に対するアンケート調査により、学修成果が得られていることを確認していること。	【薬学部】 卒業・修了生アンケート調査回収率の向上に向けた取組を、貴部局でご検討中の方策に基づき実施いただきたい。	今後、薬学部長への周知依頼がある毎に、教授会での周知、また各研究室へ「卒業（修了）生連絡先登録システム」への登録について卒業（修了）予定者へ勧めていただくよう協力を依頼する。 なお、令和5年11月22日開催薬学部教授会において、「令和5年度卒業・修了予定者の進路調査について（依頼）」の報告に併せて、「卒業（修了）生連絡先登録システム」について卒業（修了）予定者への登録についての協力依頼を行った。
I：学生が学修成果を達成するための支援が十分に行われていること	（教職課程評価：I-2） 教職課程の学生に対する進路指導の実施状況を確認する。	【教職総合センター】 ・昨年度改善指示事項であった教職への就職に関するデータの収集と適切な進路指導体制について、改善計画に基づき、適切に実施いただきたい。 （参考：令和4年度指摘事項） ・教職への就職に関するデータの収集と適切な進路指導体制について検討いただきたい。	次の事項について、教職総合センター教職運営委員会で改善計画を実施する。 ① 「教職実践演習受講者アンケート（文・理・工）」を令和6年2月に実施し、調査結果を令和6年3月末までに取りまとめる。 ②教職総合センター長から開放制学部長に対して、令和6年1月に「履修カルテ」への学生の記載及び教員の確認及び入力に関して周知徹底を図る。 ③ 令和5年1月に依頼した開放制学部が実施する教職への進路指導に関する資料（1年次の入学ガイダンスにおける教職の履修指導、教育実習の事前指導・事後指導、教職に関する進路指導（学部委員や指導教員の個別指導を含む）に関して令和6年3月末までに提出を求め、学部の実施状況について確認する。 ④ 文・理・工学部の4年生学生に対して、教育学部学生支援相談室主催の「教員採用試験対策講座」の受講を実施する。 ⑤ 文・理・工学部の教員採用試験を目指す学生を対象に、教育学部学生支援相談室において、個別指導及び面談を実施する。 ⑥ 教育学部学生及び開放制学部2年・3年生を対象に教育学部厚生就職委員会主催の「教員採用試験対策講座」（教育法規Ⅰ、Ⅱ、論作文入門、前年度過去問による模擬試験等）を6月から12月まで講座を6回開講する。
	（全学共通評価：I-4） インターンシップを除くキャリア形成支援の実施状況を確認する。	【進路支援委員会】 昨年度の改善事項「就職支援の在り方」に関して、委員会等で現状分析を行ったことが確認できなかったため、戦略的な就職支援につながるような情報の収集、分析等を適切な委員会等で確認する体制を検討いただきたい。	本学の就職支援については進路支援委員会が所掌しており、合同企業説明会等の参加状況や学生の進路などの情報収集、分析等を行い、今後の就職支援の在り方について検討を行っている。 令和4年度卒・修了者の進路データが確定したことにより、改善計画書に係るエビデンスデータが確定したため、令和5年第2回進路支援委員会にて確定データを報告した。県外企業合同説明会参加学生の参加企業への内定者数は、119名で参加者の34%、県内企業合同説明会参加学生の参加企業への内定者数は、26名で参加学生の18.8%であり、相当数の学生が説明会参加企業へ内定していることが確認された。 この情報及び分析結果を基に、3月開催予定の令和5年度第3回進路支援委員会において、令和6年度の就職支援の実施内容について検討する。 加えて、教員採用試験対策講座の開放学部への支援状況についても、受験者や合格者の情報収集・分析等を行い、検討を行う。
		【自然科学教育部理学系専攻（博士前期課程・博士後期課程）】 各教育プログラムのポリシーは確認できたが、各専攻のポリシーが確認できなかったため、次年度の公表に向けて準備いただきたい。	令和5年12月13日開催の理学部アセスメント委員会において専攻のポリシーについて検討しており、令和6年2月の運営会議及び3月の臨時教授会にて審議し、次年度、公表する予定としている。

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
		【自然科学教育部工学系専攻（博士前期課程・博士後期課程）】 各教育プログラムのポリシーは確認できたが、各専攻のポリシーが確認できなかったため、次年度の公表に向けて準備いただきたい。	現在、各専攻のポリシーについて検討を進めており、令和6年1月16日の教育委員会及び1月24日の教授会にて審議し、次年度、公表する予定としている。